

2020(令和 2)年度学生支援・教務・キャリア支援各委員会報告集

## 2020（令和2）年度 学生支援委員会業務の評価と次年度に向けた事業計画について

### 1. 2020（令和2）年度の総括について（振り返り）

2020（令和2）年度の新型コロナウイルス感染拡大により、授業は遠隔講義を基本としながら、国や自治体の施策、社会の感染拡大状況などに合わせ、学内の対策会議で都度対応を検討し実行してきた。そうした中でも学校として一貫した方針に据えたのは、学生や教職員、関係者の健康と安全を最優先に考えることであり、すなわち学生から感染者を出さないことであった。感染予防対策を徹底することで、学生にとってはこれまでとは全く異なる学生生活となった。

学生支援委員会の業務である学校行事については、本学も新型コロナ対策の方針に従い、その多くを中止することとした。一方で、既存の奨学金や新型コロナによる家計急変に係る奨学金等は、学生係が窓口になって各学科・専攻の学生支援委員と連携することにより、遠隔講義のために整備した Google-classroom 等を利用した連絡網を使って、積極的に情報提供を行った。このように、今年度は当初の事業計画ではない、新型コロナの影響下での学生支援業務として特別な事例となったことから、必ずしも計画の履行といった観点で業務を点検することはできないが、なおも続くことが十分に予想されるコロナ禍における学生支援業務としては、次のとおり振り返り先の業務に活かすものとする。

#### (1) 蘭華祭

感染予防の徹底を条件に2020年11月7日に開催した。

学生に感染予防を主体的に取り組んでもらうために、プログラム毎の対策について学生会を中心に考え本委員会で点検した上で実行したが、学生自身が考えてアイデアを出し合ったことによって、広く学生に浸透したと評価できる。学生の行動の促し方として非常に参考にすべき事例となった。

例年2日間で行う蘭華祭を今年度は1日に短縮し、学生には物足りない思いをさせた点を心配したが、学生会がプログラムを工夫したことや打ち上げ花火を初めて導入したことによって密度の濃い内容になったのか、学生からは満足する声が聞かれた。次年度以降の蘭華祭の在り方について参考としたい。

#### (2) 学生支援セミナー

各種セミナーについても新型コロナの影響により実施を中止した。「ひとり暮らしセミナー」だけは、既に用意してあったパンフレットを配布した他、ひとり暮らしでコロナ禍に直面する不安を抱く学生に対する支援策として、シチュエーション別のマニュアルを作成し配布した。

その他のセミナーについては、開催回数の多さやその効果、時代との整合性等を委員会として問題視しており検証する必要性を認めていたことから、2021（令和3）年度以降のセミナーのラインアップについては新たなテーマの導入も含め、スクラップアンドビルドを行う。

### 2. 2021（令和3）年度の計画について

2021（令和3）年度は新型コロナの状況にも影響されるが、コロナ対策も一定の知見が備わってきたため、基本計画としては学生支援委員会の通常任務について注力することとして、次のとおり事業を計画する。

(1) 学校行事について

これまで当たり前のように開催していたものも含め、今年度開催できなかった学校行事については、これを好機として開催の目的や効果、学生の満足度について新たな視点で検証を行う。

(2) 学生支援セミナーについて

前述のとおり、既存の学生支援セミナーは新たなテーマの導入も含めた形で、あらためてラインナップの検証を行う。

## 2020（令和2）年度 教務委員会業務の評価と次年度に向けた事業計画について

### 1. 2020（令和2）年度の総括について（振り返り）

2020（令和2）年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、本学ではコロナ対策の基本方針を定め、全学として感染拡大に対する対策を実施してきた。基本方針を軸に感染拡大状況や社会の状況に合わせてながら、学年暦や講義の実施形態などを都度、学内の対策会議によって検討し柔軟に対応してきた。

教務委員会としては、全学で推進する感染予防の取り組みの中で、コロナ禍当初から主として教学に関する文部科学省からの連絡や厚生労働省の資格・免許養成に係る対応方の通達等の情報を整理し、教育・研究担当副学長と連携して授業時間割や学外実習の運用に反映するように学内に向け発信、調整を行ってきた。また、年度当初は学内に遠隔講義のノウハウが必ずしも備わっているわけではなかったため、各教員が実践している授業方法等を共有する働きかけを行った。

今年度の教務委員会の業務は例年とは大きく異なり、上記のとおり新型コロナ対策が中心の取り組みとなった。年度開始前には、カリキュラムの点検・見直しの推進、科目等履修生や聴講生等の積極的な受け入れ、シラバスの内容精査といった計画を立てたものの、実際には社会福祉科子ども福祉専攻でカリキュラム変更（資格・免許単位の効率的な履修により教育効果を上げる目的）を行い、教務委員会が取りまとめて点検の上で教学マネジメント会議に提案したことの他に、当初計画を履行することはできなかった。こうした事情によって、今年度は通常の任務に照らし合わせての点検・評価が困難であるが、次年度に向けては、コロナ対策も一定の知見が備わってきたため通常任務の遂行を前提にして次のとおり計画と検討を進めてく。

### 2. 2021（令和3）年度の計画について

2021（令和3）年度は新型コロナの状況にも影響されるが、基本計画としては教務委員会の通常任務について注力することとして、次のとおり事業を計画する。

#### (1) 各学科・専攻のカリキュラムの点検

教務委員会が主導となり、各学科・専攻のカリキュラムの点検及び見直しを実施する。

2021（令和3）年度中に本学の養成資格・免許課程に関する法令の改正等の予定は無いが、社会福祉科子ども福祉専攻では新たに附属幼稚園と連携した授業内容の追加を予定するなど、既に次年度に向けた検討が始まっている。

#### (2) 共通教養科目の点検

共通教養科目の語学科目のラインナップについては、科目間での履修者数の偏りや1年次後期の極端な履修者数の減少等、かねてから見直しが必要としており、2020（令和2）年度中には、将来的な語学科目整理についての検討を話題提供していたところ。資格・免許養成課程との関係性もあることから、学科・専攻と連携の上検討を進める。

#### (3) 長期履修学生の検討

学則に規定はされているが実施には運用していない長期履修学生について、社会人学生確保の観点から運用の検討を開始する。

(4) 公欠制度について

学生の公欠の範囲について検討の上、教学マネジメント会議に提案する。

(5) 履修証明プログラムの運用

制度として設けた履修証明プログラムは実際のところ運用されていない。そこで、例えば、既存の科目等履修生の図書館司書資格取得パッケージを履修証明プログラムとして運用するなどして、地域に向けてアピールもしくはコマーシャルするといったことができるかもしれない。

(6) 遠隔授業等の方法の共有を支援する

今年度も取り組んだ業務として引き続き、教員間での授業方法の共有を働きかけ、学生に対する教育の質向上を図る。

## 2020（令和2）年度キャリア支援委員会業務の評価と次年度に向けた事業計画について

### 1. 2020（令和2）年度の総括について（振り返り）

2020（令和2）年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、入校制限等感染症対策を講じたことから、4月当初から学生が学内に常時立ち入れない状況となった。学内の合同企業説明会は延期が続き、第一回が7月30日に開催されることとなった。

また、公務員対策講座は対面授業の実施が難しく、形態を変更し通信式（問題を郵送しメールで添削）で支援を行った結果、昨年度より内定者が多くなった（21名、会計年度職員含む）。

次年度も感染症対策を継続していきながら次の通り計画と検討を進めていく。

### 2. 2021（令和3）年度の計画について

2021（令和3）年度は、引き続き新型コロナウイルスの感染状況によって、影響を受ける可能性はあるものの、キャリア支援課が通常業務に注力することとして、次の通り事業を計画する。

#### (1). 就職支援室移転に伴う支援体制の強化

学生が求人情報をより得られやすいようにするため、一階学生玄関エントランスホールに掲示する。また、個室での面接練習、就職相談を希望する学生に対しては、旧新学科設置準備室をその場所として代用する。

#### (2). Classroom の活用

上記の掲示に加え、学外であっても求人情報を確認できるよう、Classroom のストリームに新着求人を掲載する。また、希望学生に対しては、公務員対策講座の問題配布を行い Classroom 上でのやり取りができるよう、オンライン環境を整備する。

#### (3). ガイダンスの開催

今年度実施が難しかった対面でのガイダンスについては、感染症対策を充分に行い5月より随時開催する。